



アルコール綿の節約について

瀬棚町国保医科診療所

昨年11月、保健センターで、インフルエンザワクチンの集団接種を行いました。接種を受けられた皆さんには、「アルコール綿の節約」という企画にご協力いただきましたが、その調査結果がまとまりましたのでお知らせします。

アルコール綿は医学の常識？

注射する前に、アルコール綿で皮膚をふくのは、医学の常識となっていますが、皆さんの中にも「アルコール綿で腕をふいたら、赤くなる」という方がいらつしやると思います。

実は、アルコール綿によるアレルギーは珍しくなく、医療関係者の間でも「アレルギーが心配なので、なるべくアルコール綿を使いたくない」という意見があります。

また、予防接種の皮下注射という行為では、理論上、針を刺した場所に感染は起きません。もし注射の針が、皮膚の表面にいる細菌を皮下組織へ押し込んだとしても、ごくわずかな量であり、感染源（異物など）も存在しないので、細菌は繁殖できません。

そのため、習慣的に行われている注射前のアルコール消毒は、必要ないということになります。

そのようなことから、「アルコール綿」と「蒸留水の綿」を使って腕をふき、接種後の感染を比較してみることにしました。蒸留水は、消毒作用のない無菌の水です。ふたつの綿で差がなければ、アルコール消毒は必要ないことが証明され、アルコール綿を節約することができま

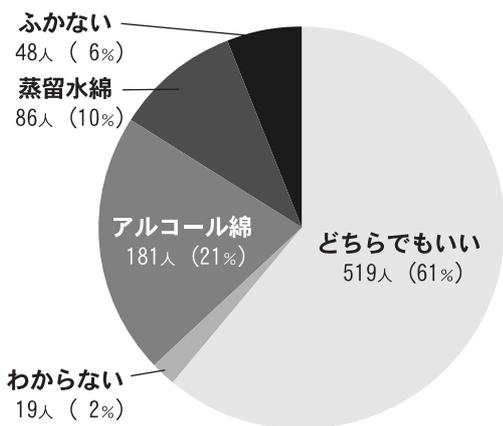
腕をふくときどうしますか？

先日の予防接種では、「腕をふくとき、どうしますか？」と質問させてもらいました。

皆さんの答えは、「どちらでふいてもいい」という方が6割、「アルコール綿がいい」という方が2割、「蒸留水の綿がいい」という方が1割でした。（資料①）

「どちらでもいい」の519人の方については、260人をアルコール綿でふき、259人を蒸留水綿でふきました。思い込みを避けるため、どちらの綿でふいているかわからない形で接種し、「わからない」という方はアルコール綿でふきました。そして後日、すべての皆さんに「腕は変わりないですか？」と連絡をとり、その結果をまとめました。

① Q.腕をふくときどうしますか？



瀬棚町議会議員選挙のお知らせ



瀬棚町議会議員選挙の投票日が次のとおり決定しましたのでお知らせします。

投票日

4月18日(日)

告示日

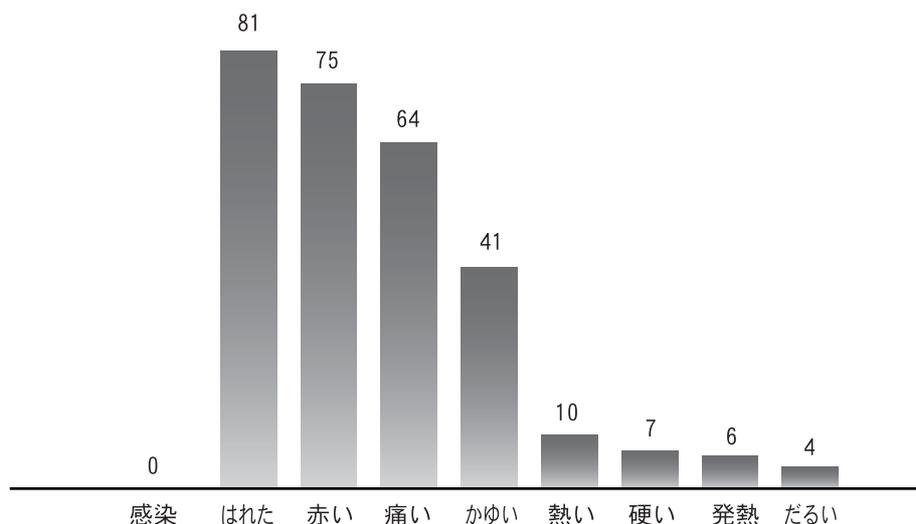
4月13日(火)

お問い合わせ先

選挙管理委員会事務局
(役場総務町民課内)

☎ 7-3311

2 副反応の件数 (単位: 件)



3 副反応の人数と発生率

	どちらでもいいと答えた方		そのほかの答えの方				計
	アルコール綿	蒸留水綿	わからない	アルコール綿	蒸留水綿	ふかない	
追跡者数 (人)	260	259	19	179	86	48	851
副反応の発生数 (人)	47	40	1	33	16	3	140
副反応の発生率 (%)	18.1	15.4	5.3	18.4	18.6	6.3	16.5

調査結果から...

皆さんに起きた副反応は、資料2のとおりでした。感染は0件で、「注射したところが化膿した」という方はいらっしゃいませんでした。

副反応の発生率は、資料3のとおりで、全体では6人に1人の割合で発生していました。「どちらでもいい」と答えた方々と比べるとアルコール綿の方が少し高いだけで、統計学的には有意な差がありませんでした。また、人数は少ないですが、ふかないで注射した方も特に問題ありませんでした。以上のように、アルコール綿を蒸留水の綿に変えても特に問題が起ころなかつたことで、「皮下注射の前に腕をふく必要は無い」と証明される可能性は非常に高いと思われます。

今後、診療所では皮下注射の時にアルコール消毒を省略し、経費を削減する方針です。そして、採血の場合も同様と考え、「蒸留水の綿でふいてもよろしいで

すか」あるいは、「腕をふきますか、ふきませんか」と質問させて頂く予定です。

これらの内容は、いまだかつて無い取り組みで、医学の常識をくつがえす事実です。これから学会などで発表しますが、常識や習慣にとらわれている人々から、批判的な意見が出るかもしれませんが、これは事実であり真実です。

医療行為をするかしないか判断する時には、3つの要素があると言われます。「臨床研究の結果」、「患者さんの好み」、「それまでの経験」、の3つで、それらを総合して判断する医療が「EBM」(EVIDENCE BASED MEDICINE)の頭文字をとったもので、「根拠に基づいた医療」と呼びます。医療は日々進歩を続けています。私たちは最新の情報、最新の根拠を取り入れながら、最善の医療を提供したいと考えておりますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

【瀬棚町国保医科診療所医師 吉岡和晃】